

## 2021年度学校関係者評価委員会報告書

学校評価委員会（自己点検・自己評価）の第一回学校関係者評価を行いました。  
その結果を下記のとおり報告します。

### 1. 学校関係者評価委員会

- ・評価委員……久留米信愛短期大学 教授（学識経験者）  
                  ヨコクラ病院 医師                  （学識経験者）  
                  筑後市立病院 看護部長                  （企業等委員：専門分野関係者）  
                  川崎病院 看護師 主任                  （卒業生：同窓会役員）  
                  学生保護者                                  （PTA：看護科学生保護者）
- ・学校……… 医師会長・学校長  
                  医師会副会長・学校担当理事  
                  副学校長  
                  准看護科 教務主任  
                  看護科 教務主任  
                  事務長  
                  事務次長（進行）

2. 日時：2021年7月16日（金）19：00～20：00

場所：講堂

### 3. 議題

- 1) 八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価について（副学校長）  
    これまでの取り組みの経緯について  
    ・准看護科、看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表
- 2) 2020年度学生状況について（副学校長）
- 3) 2020年度准看護科評価結果について（准看護科 教務主任）  
    ・ホームページにて公表
- 4) 2021年度准看護科重点課題について（准看護科 教務主任）  
    ・ホームページにて公表
- 5) 2020年度看護科評価結果について（看護科 教務主任）  
    ・ホームページにて公表
- 6) 2021年度看護科重点課題について（看護科 教務主任）  
    ・ホームページにて公表

7) 質疑応答

質問・意見（評価委員）	回答・意見（学校側）
<p>1. コロナ禍の中できめ細やかな教育に先生方の努力が伝わり、学生の状況も理解できた。報告の中で、応募者数、入学者数減少の報告があったが、看護教育の学校の形態も様々だと思う。他校の情報を教えて頂きたい。</p>	<p>大学、3年課程養成所、准看護科から看護科への進学、高校（看護科）の5年一貫教育など、看護師への道は多種多様である。 新卒高校生は、大学進学が多い傾向。</p>
<p>2. 定員割れに伴い、受験生を全員合格とすることが、逆に退学者の増加に繋がるのではないかと。また、18歳年齢の人口は減少傾向にあり、これからは社会人の獲得に力を入れてはどうか。介護分野の従事者に働きかける等、方法を考えてはどうか。</p>	<p>本校は社会人の入学生が半数程おり、卒業後社会に出た後、再度学び直しの機会となっているように思う。 介護分野からも、毎年1~2名程入学している。</p>
<p>3. 病院で新人看護師の離職率が増えている。就職セミナーの在り方を教えて頂きたい。</p>	<p>業者によるセミナーの他に、八女筑後管内の実習病院に就職した卒業生に来てもらい、病院紹介、看護師としてのやりがい、国家試験対策等について話をしてもらっている。</p>
<p>4. コロナ患者を受け入れている病院に、子どもを実習に行かせる保護者の気持ちをお聞かせ頂きたい。</p> <p>Ans. この時期に実習病院に行くのかと、不安にもなったが、子どもから病院の様子を聞き、感染対策をきちんとされているということであったので、心配はないと思っている。看護師になるためには、実習は欠かすことが出来ないのは理解している。</p>	

<p>5. 学校の魅力を教えてほしい。オープンキャンパスに参加したが、魅力がわかりにくい。この学校でどのように変化し育っていくのか、また、保護者にも「この学校に入学したら子どもたちがどのように育っていくのか」夢を見せて頂けるようなアピール力があるとよい。</p> <p>また、白衣のデザインを検討して頂きたい。透けるとの学生の意見がある。</p>	<p>オープンキャンパス等について、他校のリサーチ等を行っていなかった。</p> <p>今後改善に努め、自信をもって本校の魅力をより伝えられるように努力していく。</p> <p>白衣については、カリキュラム改正に伴い、既に検討を始めている。</p>
	<p>6. 本校の卒業生が第一線で輝ける仕事をやっていることを理想と考える。また、地域密着、ローカルの中で看護師を目指したいという夢を汲み取り、預かった学生の資格取得（全員合格）を目指し教育を行っていきたい。</p>

## 2021年度第2回学校評価委員会（将来構想委員会）報告書

日時：2021年11月26日（金）18：30～19：45

出席者：医師会…会長・副会長・事務長

学校……副学校長・両科教務主任・事務次長（進行）

外部……筑後市立病院長・公立八女総合病院看護部長・姫野病院看護部長

福島高等学校長・八女学院中学・高等学校進路指導部長

### 1.開会（18：30）

### 2.委員長挨拶（医師会長）

### 3.委員紹介（自己紹介）

### 4.議題

#### 1) 将来構想委員会の設置目的等について

・委員会設置趣旨・我が国の看護教育の動向について説明。（副学校長）

・本校の学生動向について説明（両科教務主任）

#### 2) 意見交換 ※敬称略

（委員） コロナ禍の影響で、大学入試においても学生の集まりが減少しており、専門学校に流れているのではという意見が聞かれる。今年度の応募状況を聞かせて頂きたい。

（教員） コロナ禍の影響というより、少子化や大学の増設などの影響もあり、本校の応募状況は、数年前から減少傾向が続いており、今年の入試状況としては昨年同様で厳しい状況となっている。  
実際の高校生の受験状況を聞かせてほしい。

（委員） 本校の看護系の希望状況は、AOで9名（内8名：女子は大学を希望）。理学療法士・作業療法士を目指す学生は14名（男子7名、女子7名）。こちらはオリンピック・パラリンピックなど、スポーツ関係からの影響もあり、年々増加傾向にある。

（委員） 看護系の希望状況は10名（大学を希望）  
家庭科・商業科・普通科を併設している為、多方面への進学・就職者がいる。  
新カリキュラムの教育内容の変更ポイントとして、看護に関するICTの活用とはどういったものか？

- (委員) 医療現場の中に ICT の活用が進んでいる為、臨床の立場からの返答として、情報通信技術として電子カルテなどで、パソコン操作の技術を要している。また、コロナ禍に於いて面会などでも ICT が必要となっている。
- (委員) 病院としては、電子カルテ等同じである。他に在宅（訪問）時、iPad を使用して情報の共有をしている。
- (委員) 地域的に、医療の現場ではまだ都会のように十分に追い付いていない。  
病院の看護師もコロナ感染対応にかなり影響があったが、学生はコロナ禍に対して実習に行くことにどう感じているのかお聞きしたい。
- (教員) 准看護科は、初学者であり、看護の勉強をしたい・実際の医療現場で勉強をしたい・実習に行きたいと思っている為、実習に行かせて頂くことに感謝している。行きたくないということはない。  
現場での学びは大きいと感じている。
- (教員) 今年の 2 月に 1 年生の基礎実習を学内で行った。教員が患者役となりシミュレーションを行ったが、実際の患者ではない為、コミュニケーションや看護技術など実践に繋げることを難しく感じた。  
5 月から病院での各領域実習を開始できたことに感謝している。学生も実習させて頂くことに喜びを感じている。  
学生達もコロナ感染対策の意識も高まっている。
- (委員) 離職者が多いので心配していた。  
コロナ禍で退学する学生はいなかったか。
- (教員) コロナが原因で退学する学生はいなかった。  
ICT 教育については、看護教育の改正に伴い、地域包括ケアシステムの推進など先を見越した看護教育が求められる。多職種連携や、患者を含めた家族とのコミュニケーション、10 年後の医療や看護に対応できる看護職の養成を目指して改正が行われている。  
それに伴い、准看護科に於いては、来年度から ICT 教育の一環として電子書籍の導入を行っていく。
- (委員) 高校においても、共通テストに「情報」の教育が入ってくる。看護教育としての ICT の内容を知りたかった。

県立高校においても、福岡市以外の地域は定員割れを起こしている。学力が低くなったわけではなく、少子化の影響で層が薄くなったと考える。職員も生徒の満足度を上げる努力をしなければならないと考える。

今回のコロナは、前向きに考えてよいのでは？

入学時の動機に、看護の道に強い意志を持つ学生が来るようになったのではないか。他者の勧めで入学する子はどの学校に行っても続かないのではないか。

今の学生は楽しいところを希望する。また承認欲求（SNS等）が高い。高校も新カリキュラムに変わるので、新しいことをアピールしていく事が大切なのではないかと思う。

合格基準を落とすことが正しいことなのか考える。

（委員） 進学先を選ぶ基準が、楽しいか、自分の身になるかが重要となる。看護大学に行く学生は地域医療・多職種連携について熱く語っている。多職種連携についてどう考える。

（教員） 多職種連携は2023年度のカリキュラムから看護科に導入される。既に退学したが、准看護科の学生が、理学療法士の授業を受け、もともと希望していた理学療法士への夢を再認識し目指している。准看護科では、医療における多職種の役割を知るための講義を行っていく。看護科はリハビリ関係の学校と学生同士が交流を行いながら其々の専門性を知り、連携しながらの授業をする予定である。

（委員） 看護師も承認欲求が強い。そこを考慮して関りを持たなければならない。看護師の能力として、自立した看護師の育成を考えている。

（委員） 学校のメンタルヘルスや、学生が現場に入職した際メンタルの弱い子へのアプローチをどのようにされているか。

（教員） 学生から言ってくることは少ないため、こちらから声をかけている。学校にスクールカウンセラーを置いているが、利用率は減少していることから、活用しやすいように教職員の介入なく、各個人がホームページから申し込みができるようにしている。また、全てを学校が抱え込むことは難しいので、家庭と連携をとりなが

ら、必要に応じて教職員間でも情報共有をしている。また保護者への介入については、教員間で話し合っただけ対応している。

(教員) チューター制を導入している。1名の教員が6～7名の学生を担当し、個別に対応している。しかし、心を開くまで時間がかかる。コロナ禍に於いてスポーツ大会などの親睦の機会もない時代である。出来る限りこちらから声をかける努力をしている。

・今後に向けて (副学校長)

## 5. 閉会 (19:45) 副会長挨拶

(理事) 立場は違うが、よりよい人を創ろうという目標は皆さま同じだと思う。学生が病院で実習した後、就職へ繋がる。高校の先生方・教育として考えた時は一緒だと思う。よく育ててくれたと思っていただければ幸いに思う。お互いWINWINの考えで、一緒に子どもたちを育てていきたいと思う。